

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「シニアのチカラで社会を変えよう！」

日 時 平成26年12月16日（火） 18時から19時30分まで

場 所 上田市西部公民館（上田市常磐城）

### 目 次

|   |                                       |                                  |      |
|---|---------------------------------------|----------------------------------|------|
| 1 | 開会                                    | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | P 2  |
| 2 | 知事 冒頭あいさつ                             | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | P 2  |
| 3 | 事例発表                                  | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | P 5  |
| 4 | 意見交換                                  | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | P 16 |
|   | 質問                                    |                                  |      |
|   | 「今、シニア世代にできること、やってみたいこと。シニア世代に期待すること」 |                                  |      |
| 5 | 知事 結びのあいさつ                            | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | P 31 |
| 6 | 閉会                                    | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | P 33 |

進 行 役 内山二郎氏（長野県長寿社会開発センター理事長）

## 1 開会

### 【広報県民課長 土屋智則】

皆様、大変お待たせをいたしました。それでは、ただいまから県政タウンミーティング、始めてまいります。

本日は年末のお忙しい時期、また特にお足もとの悪い中、大勢の皆さんにご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。私、意見交換までの進行を務めます、県庁広報県民課長の土屋智則と申します。どうぞよろしく願いいたします。

さて、本日の県政タウンミーティングは、「シニアのチカラで社会を変えよう！」をテーマに、皆様と意見交換をしてまいります。

それでは最初に、長野県知事阿部守一よりごあいさつを申し上げます。

## 2 知事あいさつ

### 【長野県知事 阿部守一】

皆様、こんばんは。今日は雪がたくさん降る中、大勢の皆様方に集まっていたいただきまして、大変ありがとうございます。

県政タウンミーティングということで進めさせていただきますが、私が知事になってから通算で42回目のタウンミーティングということで、この間、3,700名を超える皆さんとタウンミーティングさせていただきました。今日のテーマは、「シニアのチカラで社会を変えよう」ということであります。

長野県、これは長野県だけではなくて、今、日本全体の大きな問題、大きな課題として言われているのが何でしょうか。幾つかありますけれども、私の、今、県知事として頭の中のかなりの部分を占めている問題が人口の問題です。人口の問題。長野県は、これからの20年間で30万人の人口が減るとというのが、今の人口推計です。毎年1万人以上、人口が減るんです。

長野県は小さな町とか村が多いですから、毎年、軽く村が一つずつぐらいは着実になくなってしまいますし、20年間トータルすれば、松本市もなくなってしまうというぐらいの規模ですから、普通、毎日暮らしていて、そんな人口が減って大変だという感覚は、私も正直あまりないですし、皆さんもそんなにないと思いますけれども、実は大変なことだと思います。

人の数が減るということは、もちろん、例えば経済活動、例えば人の消費する量がどんどん減りますよね。長野県だけでなく、今、日本全体が人口減少ですから、例えば農家の皆さんが一生懸命、野菜とかくだものとかお米とかをつくっても、少なくとも国内で食べる量、一人の人が1.何倍も食べる時代になれば別ですけれども、確実に消費は減ってきます。

あるいは、これ企業活動をやっていく上で、企業の皆さんとお話するときにはいつも言っているんですけども、やっぱり従業員をしっかりと確保しなければいけないわけですが、人口がどんどん減って、特に今、子供の数が減っていますから、若者がどんどん減っています。そうすると、今までと同じようなことを同じようにしていても、社員を

確保するのはだんだん難しくなる。同じ規模で事業を維持していくのは当然、人口全体が減っていけば消費も少なくなるし、人手の確保も難しくなると。

あるいは、昨日、私は私立学校の皆様方が私学振興大会、私立の学校の皆さんが大会を開いて、そこへ呼ばれていきましたが。当然、子供の数が減れば、私立学校の経営は当然、厳しくなってきます。いろいろ人口問題は社会全体に大きな影響を与えていきます。

そういう意味で、二つ考えなければいけないことが大きくありまして、一つは、人口の減り方をどう急激な減り方でないようにしていくかと。これはいわゆる少子化対策と言われています。今、長野県は合計特殊出生率、お一人の女性の方が子供を産む数が1.54人です。1.54人のレベルで人口がどうなるかといえば、どんどん減っていく一方ですよ。2.07人でやっと同じレベルで推移すると言われていますが、1.54人ですから、このまま放っておくと、どんどんどんどん人口は減ります。

ですから、私が今、考えているのは、もう少し、今、結婚したくてもできない若者がいます。あるいは結婚して子供を産もうと思っても、経済的な問題とか、あるいは核家族化が進んでやっぱり子育ての不安定感があったりして、本当は子供を産みたくても産めない。あるいは本当は二人、三人、子供を産んでもいいなと思うけれども、やっぱり教育費もかかるし、保育費もかかるし、ちょっと一人でやめておこうとか、二人でやめておこうとか、そういう人たちがいるので、そういう人たちの背中をちょっとでも押すことができないかということ、今、一つ考えています。

それからもう一つ、やらなければいけないのは、今、子供を産める女性の絶対数が減ってしまっていますから、出産適齢の女性の数が減ってしまっていますから、今、直ちに2.07人に人口出生率を戻しても、人口はしばらくは減り続けます、どう考えても。では、それで暗くなってしまったらいけないので、人口が減っていく中でも安心して暮らせる社会、元気な社会をどうつくるかということ、片方では考えなければいけないと思っています。

そう考えたときに、我々長野県の、今、目指している方向性というのは「しあわせ信州創造プラン」、新しい県の5か年計画にも書いてありますけれども、「誰にでも居場所と出番がある信州をつくりましょう」、誰にでも居場所と出番です。誰にでも。これが今日のテーマであるシニアの皆さんもそうですし、障がい者の皆さんもそうですし、女性、若者、あるいは外国人、いろいろな方たちがそれぞれ自分たちの能力を最大限に発揮して、活躍できる長野県にしていきたいと思っています。

そういう中で、今、人口問題で、やはり少子化の反面、高齢化ということが言われていて、私ももうちょっとで誕生日を迎えまして、もうすぐ54歳になります。まだまだ皆さんに比べれば若いので頑張らなければいけないですけども、最近はずいぶん小さい字を見ると老眼鏡をかけなければいけないのではないかと、年頃になってきて、自分の老後もどうしようかというのを考えなければいけない年になってきました。

ただ、やはり私は年をとっても活躍できる、自分も知事の仕事をやめた後もいろいろな形でいろいろな人とつき合いたいし、社会に参加したいし、できれば少しはお小遣いになるような働き方もしたいと思っていますので、大勢の皆さんがまずやっぱり健康でありたい、そして健康である限りは社会のために働きたい、あるいはボランティアでもいいから

社会参加したい、そう思われている方が多いだろうと思います。

是非、今日はシニアの皆さんが多いので、そういう皆さんの思いを出していただいて、どうすればシニアの皆さんがもっと活躍できる長野県になるのかということ、一緒に考えていきたいと思っています。

これは、私は皆さんにお礼を言わなければいけないんですけども、私は長野県の知事として、県外へ行ったり、あるいは海外へ行ったりして、必ず言われるのは、「いや長野県は健康長寿県で素晴らしいですね」と言われます。ただ、別に私が頑張ったから健康長寿県になっているのではなくて、皆さんお一人お一人のおかげで健康長寿県です。この健康長寿県の要因は何ですかと聞かれます。いろいろあると思います。医療関係者、あるいは保健指導員とか、食改（※食生活改善推進員）の皆さんの力が反映している、そして野菜の摂取量が多いと、いろいろありますが、一つ大きな要因としてあるのは、年をとっても働いている方が多いことが一つ、重要な要素だと私は思っています。

長野県の高齢者の就業率は日本の中でも一番高い、47都道府県の中で一番高い県です。これは農業があったり、産業構造の要因もありますが、それだけではなくて、やっぱり気力がある方、年をとっても頑張ろうと、地域のために何か役に立とうと思っていただいている方が多いおかげだと思います。これはやっぱり長野県のすごい強みだと思いますので、是非私はこれをもっともっと伸ばしていきたいと、この強みを伸ばしていきたいと思っています。

他方で、私も昔、ギランバレー症候群という難病に一時かかって寝たきりになった時期がありましたけれども、病気になって、あるいは体がちょっと動きにくくなったなという人たちにとっても、やっぱり安心して暮らせる長野県、両面を目指して取り組んでいきたいと思っています。

是非今日は、長寿社会開発センターの内山理事長にコーディネーターを務めていただいて、皆さんの意見をどんどん引き出していただこうと思っていますので、どんどん皆さんの思いを出していただいて、一緒になって、年をとっても元気で働くことができる、あるいは社会に貢献できる長野県づくりを目指していきたいと思っています。

ちょっとあいさつが長くなって恐縮でありますけれども、今日は本当に雪の中、お集まりいただきましてありがとうございます。是非有意義な会議になるように、私も一緒に皆さんと取り組んでいきますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### 【広報県民課長 土屋智則】

ありがとうございました。それではおおむね7時25分ぐらいを目安といたしまして、これから意見交換に入ります。なお、この意見交換の内容につきましては、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページの方に公開してまいりますので、ご承知おき願いたいと思います。

本日は意見交換の進行役を、先ほど知事からもご紹介がありました、内山二郎様にお願いをしております。

内山様は長野県長寿社会開発センターの理事長として、高齢者の皆様の生きがいづくり、

健康づくり、社会参加にご尽力いただきますとともに、フリージャーナリストとして人権問題であるとか障がい者問題、そういったことに関する執筆や講演などに取り組みられるなど、多方面でご活躍でございます。本日はご多忙の中、お引き受けいただきまして、大変ありがとうございました。

それでは内山様にマイクをお渡ししますので、この後の進行の方、よろしく願いいたします。

### 3 事例発表

#### 【内山二郎氏】

皆さん、こんばんは。ただいまご紹介いただきました、長寿社会開発センターの理事長の内山二郎と申します。今日の県政タウンミーティングの進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日のテーマは、こちらにもありますけれども「シニアのチカラで社会を変えよう！」ということでもあります。ただいまの知事のごあいさつにもありましたけれども、長野県、男女ともに日本一の長寿県になりました。それ自体、大変喜ばしいことではありますけれども、その一方で、今、お話しありましたように少子化が急速に進んでいる。人口が急激に、まあ生産年齢人口というんでしょうか、働く人口が急激に減ってきていると。そうした状況の中で、高齢者が今まで培ってきた経験だとか、技だとかを生かして、地域の一員として、その役割を担って、積極的にこの地域社会を支えていくことが期待される、そういう状況になってきています。大きく時代は今、変化してきております。

私どもの長寿社会開発センターでは、県の5か年計画「しあわせ信州創造プラン」の中に位置づけられました高齢者施策、人生二毛作、生涯現役社会の実現のために、シニア世代が生きがいと誇りを持ってさまざまな形で社会参加できる機運をつくり、そしてまた参加の仕組みをつくることに取り組んでおります。

このようなタウンミーティング、上田のほかに、今年は諏訪、大町、長野、北信などで計画されておりますけれども、このように知事においていただいてタウンミーティングをするのは、この上田だけでございます。

今日のタウンミーティングは、初めに地域で活躍するシニアの方々の活動を幾つか紹介させていただきます。後半はここにお集まりの皆さん全員参加で、さまざまな地域課題の解決のために我々シニア世代に一体何ができるのか。それから、まだシニアにはちょっと遠いという方は、シニア世代に何が期待できるのかというようなことを、後ほどご説明しますけれども、ポストイットにお書きいただきながら、それを集約して話し合いを深めてまいりたいと思います。

それにしても、ちょっと堅くないかい、雰囲気。いつもタウンミーティングのときに、この堅い状態をちょっとほぐすゲームみたいなことをやるんですけれども、上田地域、顔見知りの方もいらっしゃると思いますし、それから初めてという方もいらっしゃると思いますが、ちょっとお立ちいただいて、僕の号令で。そして、どこにでも行って「こんにちわ」とあいさつをすると。そして、私はどこどこの何々です、どうぞよろしくといっても、

また「こんにちは」といってあいさつをするというふうにして、5分だけ時間をとりますので、自由に動き回って、そしてできるだけたくさんの人とどれだけごあいさつができるかという、ちょっとしたゲームです。ちょっとご協力ください。

そして今日は知事もおいでいただいております。県のいろいろな課の担当者も来ていますので、県の方も是非その県民の中に入って、ちょっと握手ゲームにおつき合ってください。

どうぞ「please stand up」、それでは始めてください、自由に。

### 【握手ゲーム】

そのぐらいでよろしいかと思えます。お席にお戻りください。

どうですか、何人とごあいさつできましたか？・・・10人ですか。あなたは何人ですか？・・・15人、そのうちの女性は何人ぐらいですか？・・・女性だけ、なるほど、狙っていますね。ということで、少し和んだところで、今日のタウンミーティングに入りたいと思います。

### 【事例発表1】

最初に、上田で活動されている二つの活動事例の紹介をお願いしたいと思います。

まず学校支援ボランティアといことで、滝澤泰夫さん、お願いいたします。

滝澤さんは、上田市の西部公民館、ここですね。その主催の第三中学校支援ボランティア養成講座で、「花と庭づくり教室」の受講者のグループリーダーをされていたということなんですけれども。

これ実際、これどういうことからそれをやろうという気持ちになったんですか。

### 【滝澤泰夫氏】

西部公民館のチラシを見まして、それで三中と西小学校の殺風景な庭に花を植えてやろうということで、年齢的にも、シニアと書いてありましたね、横文字はよくわからないですけれども、そういうことで参加して、初め12~13名だったんですが、今年で3年目になります。

### 【内山二郎氏】

3年目、実際、こういうふうには花を植えて。

### 【滝澤泰夫氏】

花を植えて、鍬なんか持ったことない人間が、80歳にして鍬を持つというようなことをして。

### 【内山二郎氏】

今、もう80歳でいらっしゃるんですか。ということですね。

これはシニアの世代だけじゃなくて、学校の生徒さんと一緒にですか。

**【滝澤泰夫氏】**

三中の例をとりますと、三中に緑化委員会というのを生徒さんが、44～45名いるんです。それで我々のシニアの、まあ作業の右も左もわからないような人や年を取って身体が不自由になってきたような感じの人も入ったりして、こういうふうには花を植えているという趣向に参戦したということです。

**【内山二郎氏】**

なるほど、80歳にして鋤を握ってというふうにおっしゃいましたけれども、やってみて、何かやっぱりよかったな、シニアはまだまだいけるぞという感じですか。

**【滝澤泰夫氏】**

一番いいのは、若い孫の年齢と一緒にしゃべりますと、若いだけあって、いい言葉が返ってくるんです。我々の場合は、これやれ、これやれというような、そういうコミュニケーションがととてもよくできますから、それが第一の喜びでございます。

**【内山二郎氏】**

若い世代と、孫のような世代と、なるほど。  
そしてこれからまだまだ元気でいらっしゃるから続けられるんですよ。

**【滝澤泰夫氏】**

まあ、生命がある限りは本人はやりたいと思っているんですが、年齢制限があるもので、そろそろ引退しようかなと思っています。

**【内山二郎氏】**

いえいえ、まだまだこれからで。  
何かピオラの花言葉、「誠実、信頼、忠実、誠実な愛、ほか少女の恋」と書いてありますが。

**【滝澤泰夫氏】**

一番いいのはこれなんです。

**【内山二郎氏】**

少女の恋ですか。その少女の恋に・・・

**【滝澤泰夫氏】**

はい、ほれ込んで。

**【内山二郎氏】**

ほれ込んで、少女に恋されるとか。

**【滝澤泰夫氏】**

そうですね。向こうが嫌って逃げちゃうんですけれども。

**【内山二郎氏】**

こっちが恋するんですね、なるほど。それで若くいらっしゃるんですね。  
これからの夢は。

**【滝澤泰夫氏】**

夢といいますと皆さんと同じことで、学校の殺風景なところにきれいな花を植えて、それで自分も、もし自分がみぐさかったら、そんな言葉を使ったらいけないんですが、花のように美しい気持ちで学校生活を送っていただければと思ったのが発端でございます。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。知事、信州でも信州型コミュニティスクールというので、随分、力を入れていらっしゃいますけれども。

学校に地域の人が入って行って、それでこういう形で学校支援をするというのは、これどうですか。

**【長野県知事 阿部守一】**

いや、これはどうですかというか、本当にありがとうございます。滝澤さんみたいな活動をどんどん広めていきたいと、私も思っています。

実は今日も学校の先生たちと少し話しをしたんですが、学校の先生方は、今、大変なんです、いろいろなことをやらなければいけなくて。もちろん学校の勉強は教えなければいけない、それ私、基本だと思えますけれども、それだけでなく、部活をやらなければいけない、修学旅行に連れていかなければいけない。

最近、やっぱり、発達支援が必要な子供たちとか、あるいは不登校の子供たちとか、そういう子供たちにもきめ細かく対応しなければいけない。それに加えて、これ行政が変えなければいけないんですが、やっぱりいろいろな調査物とか文書がいっぱい来て大変だと。私、やっぱり学校の先生は、子供たちに向き合う時間をもっとしっかりつくってもらいたいと思っているんです。

今日も実は先生たちに言ったんですけれども、何か先生たちが地域の人たちと分担できることはこんなものがあると、もっと言ってくださいと言いましたけれども、まさにこういう活動を地域の皆さんにさせていただいて、そして子供たちと地域の皆さんが触れ合うことによって、学校の先生にとっても子供に向き合う時間が増えますし、そして子供たちも、



私、学校の狭いコミュニティで大人は先生だけというのは、子供たちにとってはどうかかなと思っています。

やっぱり地域の皆さんが、いろいろな経験とかいろいろな社会的な背景を持っている人たちが、子供たちと接することによって子供たちが学ぶことがいっぱいあると思います。そういう意味で、今、内山さんが言っていた、信州型コミュニティスクールというのを全県下に広げていこうと思っていますので、是非滝澤さんみたいな活動を広げていくと同時に、今日お集まりの皆さんも、身近な小学校とか中学校に、できることがないかなというので協力をいただければありがたいと思います。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございました。

まだまだそんな引退なんて考えるのは早いですよ。知事も期待しているから頑張ってください。

今の知事の言葉にOKと言いますか。

**【滝澤泰夫氏】**

桶（※OK）かバケツか知りませんが。

**【内山二郎氏】**

どうもありがとうございました。

それでは2つ目ですけれども、「ふれあいワンコインサロン」の活動をしていらっしゃいます、竹内久子さんですね。

**【竹内久子氏】**

皆さん、こんばんは、竹内でございます。よろしく願いいたします。

**【内山二郎氏】**

竹内さんは、ひまわりボランティア会のメンバーで、朝日が丘団地の地区の自治会長さんでもいらっしゃって。

**【竹内久子氏】**

そうでございます。何か、誠によくはできないんですけれども、頑張っております。

**【内山二郎氏】**

そして自宅の、もともとはお店をやっていた、その空き店舗を活用して、高齢者のサロンを運営するグループをリードしていらっしゃるということですね。

**【竹内久子氏】**

はい、そうです。

**【内山二郎氏】**

そのきっかけは何だったんですか。

**【竹内久子氏】**

私が21年度に社会福祉推進委員をやらせていただきましたときに、長野大学の先生のお話しをお伺いしましたところ、地域の元気な方を玄関から外に出して、楽しいプランをやっていたらありがたいという意見をいただきまして。では、元気な人たちが集まってお茶でも飲んだらどうかしらということではじめました。

**【内山二郎氏】**

サロンが始まったんですね。やってみてどうですか、やっぱりそういうニーズというか、そういうことを求めているお年寄り、結構多いですか。

**【竹内久子氏】**

そうですね、それで最初のころは、女の人たちのボランティアを募りまして、10数名集まりましてはじめましたところ、地域の皆さんの反応は、女の人たちが集まってそんなことを始めても、すぐまた何かいろいろなことが起こってやめてしまうのではないか何ていう、そういう意見もあったんですけれども、私たちボランティア、とても仲良しで、そしてこういうフラも習っております。

**【内山二郎氏】**

フラダンスね。

**【竹内久子氏】**

ええ、施設に行って訪問を年60回ぐらいやっているんですけども、ボランティアの人たちが集まって、みんなで楽しくフラを踊って、皆さんに楽しんでいただいていると、そういうこともやっています。

**【内山二郎氏】**

なるほど、やっていたらしゃるんですか。

それから自治会長さんとして、「朝日が丘お助け隊」という活動も始められたそうですが。

**【竹内久子氏】**

今年から始めまして、地域のごことは地域の人たちができる力を使って、地域をきれいにしていったり、また困っている人を助けたりということを立て上げてまして、今年個人のお宅はやらないということで、初めての年ですから、やらないということで始めたんです。

けれども、どんどんこういうことをやってくれとかということで、お庭の手入れとか木の伐採とか、それから児童館の公園の整備とか、どんどん入ってまいりまして、それから自治会の障子張りとか、そういうちょっとしたことを活動してまいりました。

**【内山二郎氏】**

地域の中でそういうことを。

**【竹内久子氏】**

そうです。地域の人が地域をきれいにするということです。

**【内山二郎氏】**

なるほど。ということで、これからはどんな活動を展開していかれるんですか。

**【竹内久子氏】**

これからも、今度、個人の人のお仕事ももっと受けてやっていきたいと考えております。

**【内山二郎氏】**

なるほど、これから地域のことを、地域の課題を地域の人たちと、できることは解決していくということですね。

**【竹内久子氏】**

そうです。

**【内山二郎氏】**

そういう仕組みをつくられたということですね。

**【竹内久子氏】**

そうです。はい。

**【内山二郎氏】**

知事、やっぱり今のお話しで、やっぱり地域の人が、全部行政にお任せするとか、行政はやってくれないというのではなくて、地域の人たち自らが、やっぱり地域の困りごとを解決していく仕組みづくりということですよ。

**【長野県知事 阿部守一】**

そうですね。私も竹内さんの地域に住みたいです。

**【竹内久子氏】**

是非住んでください。

**【長野県知事 阿部守一】**

やっぱり、この間の神城断層地震で、あれだけ大きな被害が出たんですけれども、亡くなられた方がいらっしやらなかった。やっぱり地域の皆さんの日ごろのおつき合いの中で、だれがどこの部屋で寝ているかというのを、自治会の方がみんなよくわかっている中で救助活動を行ってもらって。

私、災害のときもそうですし、こういう竹内さんが取り組まれている日常の暮らしもそうですけれども、やっぱり自助と共助と公助、この3つのバランスがやっぱり必要だと思っています。

自助はやっぱり自分で、例えば災害のときも、いざ何かのときは持って出す荷物はどうするかとか、やっぱりご自分で考えてもらわなければいけませんし、やっぱり、今、県も市町村も、例えば仮設住宅をつくったりして応援しますけれども、でも自助と公助だけだと、きめ細かい支援は正直難しいです。やっぱり地域の皆さんの支え合いが、自助と公助に加えてあると地域の力というのはすごく強くなりますし、本当に安心できる暮らしにつながっていくと思いますので。

是非、竹内さんみたいな活動も我々どんどん応援したいと思いますので、頑張ってください。ありがとうございます。

**【竹内久子氏】**

ありがとうございます。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。

**【長野県知事 阿部守一】**

ありがとうございます。

**【内山二郎氏】**

竹内さん、自治会長さんとして何か、だからこそできるという感じもありますよね。

**【竹内久子氏】**

ええ、そうですね、私の意見を皆さん賛同してくださいまして、私のやっているときだけは助けてあげるんだと、そんなことを言う男性もいっぱいまして、大分助かっておりますけれども、地域の方が喜んで参加してくれることは大変うれしく思います。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。自治会長さんをやめられた後も、こういう活動を続けていって

いただきたいと思います。どうもありがとうございました。

**【竹内久子氏】**

そうですね。どうもありがとうございました。

**【内山二郎氏】**

お二人の活動事例を発表していただいたんですけれども、この上田地域には、そのほかにもシニア活動の事例がたくさんあるようであります。

長寿社会開発センターのシニア活動推進コーディネーターで、この地域を担当しております下倉さん、ちょっとご紹介いただけますでしょうか。

**【下倉シニア活動推進コーディネーター】**

すみません、下倉と申します。今年からシニア活動推進コーディネーターということで、上田の保健福祉事務所のところで、長寿社会開発センターの職員としていろいろな地域の方々のお話を伺ったりしているところです。

今日、まずご紹介したいのは、その会場にあるお花なんです。(※会場内には造花を飾りました)今日のテーマは「シニアの社会参加」ということなんですけど、元気な方も、当然なんですけど、施設など利用されている方にもいろいろな形で社会参加していただきたいということで、敬老園というところ、高齢者の施設がございます。上田原と塩川の敬老園さんにご協力いただいて、そのデイサービスなどを利用されている方々に実際に作っていただいて、こういった間接的な参加の仕方なんですけれども、ご協力をいただきました。

それから、花がさきっているビンは、これは障がい者施設でいろいろな作品、障がい者の方の作品づくりに取り組んでいらっしゃる「かりがね福祉会の風の工房」というところからお借りをした、その花器でございます。

それから、その花器の下に敷いてある台、これがまた味のある台でして、これ何かといいますと、ある地域の高齢者の方が、いずれ私がやっかいになるかもしれないという、その障がい者の施設にわざわざ手づくりでそれを作って、寄贈されたという代物でございます。

いろいろな形の社会参加の仕方があるんだなということでちょっとご紹介をしたかったということで、今日、お借りしてきました。

**【内山二郎氏】**

たとえ施設に入っても、社会のために何か役に立つことができるということですね。

**【下倉シニア活動推進コーディネーター】**

そうですね。それともう1個、先ほどスクリーンのトップ画面でも、チェーンソーアートという、カエルの像がありましたけれども。

上田市内を見ますと、いろいろなところでそういった像があります。結構、町の風景が

和やかになっているんですけれども、今日、これ作っていただいた水野さんという方がちょっと来ていらっしゃいますので。

**【内山二郎氏】**

水野さん、どこにいらっしゃいますか。水野さん、チェーンソーアート。

**【下倉シニア活動推進コーディネーター】**

まず何でカエルをつくったんですか。

**【水野和雄氏】**

カエルですね。そこにも新田の方がいますが、自治会の二子塚（古墳）のところに何かベンチをとということで。

それで、やっぱりかえる、いい時代に返る。カエル、やっぱり自分、相手ばかり責めないで、自分を振り返る。そんな意味で、ちょっと二宮金次郎仕立てのカエルのベンチをつくってみました。

**【内山二郎氏】**

なるほど、下倉さん、この上田に入ってくると、あちこちに何かチェーンソーアートのあれが、モニュメントというか、あちこちに見えますけれども。

**【下倉シニア活動推進コーディネーター】**

そうなんです。お話し聞きましたら、いろいろな小学校とか公園に、昔、植えたヒマラヤヤスギが大きくなり過ぎてしまって、伐採するケースが非常に多いんだそうです。それ単に切ってしまうのはもったいないので、それを、スタンプカービングという言い方をするんですが、それで像をつくって、子供たちも楽しみながら、いずれは土に返していくという、そんなようなお話を聞いて、ちょっと感動したところなんです。

スタンプカービングの魅力を一言。

**【水野和雄氏】**

市内、いろいろなところに公園があるんですが、一番よく早く成長するヒマラヤヤスギを植えた時代がありまして、今となると、もう30年、40年たつと。今度、公園でみんな緑の恩恵を受けた人たちが、今度はトヨ（雨樋）が詰まる、鬱蒼としている、薄暗い、早く切ってしまうというんですが、今まで恩恵を受けていた公園で、ただただ切ってチップにするのでは、これは何の意味もないだろうと。今度は、私たちが公園に恩返しをしなければいけないと。それでもう一度、みんな集まってもらえるようにするにはということで、チップにする部分と2メートルぐらい根っこから残してもらって、そのまま切っていただいて、あとはいろいろなモニュメント仕立てにカービングしますので、そうすると、またみんなが公園に目を向けてくれる。そうすると、また公園が生きるかなということで、それでスタ

ンプカービングを根っこ付きでやるんです。

いずれは、朽ちていくまでは楽しめますので、各公園で、今、そのスタンプカービングが市内でもたくさん増えています。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。知事、信州は森林というのが非常に多くて、それをどう生かすか、県産材をどう生かすかというのが大きいですね。

**【長野県知事 阿部守一】**

いろいろ私に振られてしまって困るんですが。

**【内山二郎氏】**

何でも困ったときに、知事に振ればすぐ答えてくれるんです。

**【長野県知事 阿部守一】**

長野県もかつて、今、ヒマラヤスギのお話しありましたけれども、長野県内の森もかつて植林した木が相当育ってきています。しかしながら、なかなか使い切れていないので、やっぱり人工林として植林したような山は、やっぱり人が手を入れないと、間伐もしていないと災害も起きやすくなったりとか、そういう悪循環に、今、なってきてしまっています。

これをいい循環に変えようということで、今、信州F・POWERプロジェクトというのを進めていますけれども、森を木材として使う、それから発電用として使う。そういうことによって森を生かすことによって、森林を持っている方、あるいは林業関係者の人たちの収入にもなって、それをもう一回、森林の再生へとつなげていこうというプロジェクトを進めているところですので。

是非、森林資源、薪ストーブとかペレットストーブをお持ちの方も多いかもかもしれませんけれども、是非自然エネルギーの普及拡大も長野県は進めています、やっぱり身近なところで身近なエネルギーを使ったり、あるいはこういう身近なところの木材を大切に自分の地域で活用する中で、いい循環を地域の中でつくっていただきたいと思いますし、県としてもそういう方向を進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。その一つとして、木材をアートとして活用し、それが自然に朽ちていく、その自然をまた大事にしていくという水野さんの取組でございました。

まだまだすばらしい活動がいっぱいこの地域にはあるようですけども、それはこの後の意見交換会の中で、もしご紹介できればと思います。

## 4 意見交換

### 【ポストイットを使用した情報整理法に基づく意見交換】

この県政タウンミーティングでは、参加者の皆様のご意見等を「付箋紙を利用した情報整理法」により整理し、意見交換をしました。

方法は、質問について、ご自分の考えを付箋紙に書いていただき、会場正面に設置した模造紙の上で、グループ化をします。そのご意見について、詳しく発言をしていただきながら、知事などがお答えし、議論を深めていくものです。

(参考写真：参加者の書いた付箋を整理したもの)



それでは、これから皆さんと一緒に作業を進めていきたいと思いますが、一番初めの予定では、こんなものをスタッフの皆さんに用意してもらいましたが、よくやるワークショップは、まず地域の課題、心配事、不安なこと、困りごとは何だろうかというのを出して、それを解決していくために、自分たちの地域の力で解決していくために自分たちとしては何ができるかというような問いかけをして、こういうポストイットに書いていただきながら進めるという方法をとるんですが、今日は時間が限られておりますので、今、シニア世代にできること、やってみたいこと、あるいはまだシニアの世代に足を踏み入れていない皆さんには、そのシニア世代に期待することということで、黄色のポストイットだけ、この黄色のこれだけ使っていきたいと思います。ちょっと課題のほうは省略させていただきます。

それで、この書き方ですけども、このルールは何を書いてもどんなことを発言してもOK、バツはありません。それで1枚の紙に、今、これだけの人数ですから、何枚も何枚も書くと、ちょっと重なってしまいますので、1枚、今、自分が特に思っていることを



一つだけ、1項目書くということです。そして地区とお名前を入れておいてください。そうすると、後の話し合いのときにそれを使って話し合いを深めることができます。

ですから、ここには課題解決のためにシニア世代にできることでありますけれども、ちょっと言い直しますと、今、シニア世代のできること、それからやってみたいこと、それから、まだそこへ足を踏み入れていない皆さんにとっては、シニア世代に期待することということで、1枚に1項目ずつ書いて、そして周りにスタッフがいますので、お渡してください。そうしたら、それを整理して皆さんとの交換に入っていきたいと思います。よろしいでしょうか、その時間をちょっととります。横書きでいきたいと思います。横書きでお願いいたします。1項目、そして地区とお名前ということで。

(参加者がポストイットに意見を記入)

スタッフの皆さんはどんどん回って、もう書かれたものからどんどん集めていきましょう。

そして、ちょっとお手伝いいただけますか。複数人数でどんどんまとめていってください。グルーピングして、そして小見出しをつけていってください。地区とお名前をお願いいたします。知事も出しています。

この間に、ちょっと時間がかかりますので、遠慮なくトイレに行ってください。

時間が限られておりますので、作業と同時に進めていきたいと思います。

(ポストイットを回収し、類似の意見を集約しグループ化)

シニアのチカラで何ができるかということなんですけれども、まず見出しをつけてもらいました。地域での交流、世代間交流とかボランティア活動ができる、学校支援ができる、居場所づくりができるというようなことが出てきております。

そして、地域での問題ということで、Aさんが、自治会のコミュニティ活動を自発的にするとおっしゃっています。それから自分の近所から声をかけ合うというのが大事ではないか。Bさんがおっしゃっています。

それからCさんが、年金の時代を、好きなことに目を向けて地域に溶け込んでいく。Cさん、これちょっとこのご意見から聞いていきましようか。Cさん、どこにいらっしゃいますか。はい、Cさん、もうさっきおっしゃった、ごめんなさい。

コミュニティ活動になかなか参加するということが、今、少なくなってきたんですけれども、Aさん、どこにいらっしゃいますか。この気持ちを。

### 【参加者女性A】

単にそういうふうに、施設が書いてくれたものに参加するというだけではなくて、自分たち、シニア世代も自分たちで、進んで自分たちでやるということも大事なんじゃないかと考えています。

**【内山二郎氏】**

なるほど、お役目で役が回ってきたから、仕方なくやるというのではなくて、シニア世代が自ら進んで地域活動をする。

**【参加者女性A】**

お役目の方がつくってくださったのを、参加しないと悪いかなと思って参加するのではなくて、自分たちでこういうことをやりたいということ、そういう活動ができるようになると思います。

**【内山二郎氏】**

なるほど、まさに活動を自ら起こしてということでしょうか。

**【参加者女性A】**

はい、そうです。

**【内山二郎氏】**

はい、ありがとうございます。それから、これは地域の人と触れ合う時間を多くするお手伝いをする。サロン、カラオケ、軽い軽体操など、町内を歩くとかということで、これは朝日が丘の、これはどなたでしょうか、ちょっとお名前が読めない。これ書いた覚えのある人。

**【参加者女性D】**

はい。私たちは、もうご他聞に漏れず限界集落なんです。なものですから、家にこもりがちで、自分も含めてそうなんですけれども、そういう人たちがみんな一緒に集まっているだけのような活動で、地域の人たちを、お家にひとりでテレビを見たり、寝たきりになっていない方たちをみんなで引き出して、楽しく歌を歌ったり、カラオケを、たまたまお借りしているボランティア活動をやっております。

「ふれあいサロン」には、カラオケの設備があるんですよ。歌を歌うということは、気持ちを外に向けてということで、とても明るくなって、これ皆さんも今までは何も知らなかった、ご近所の方がみんな集まっておきまして、それで歌を歌ったら、何か気持ちが清々したと、そういうようなことで、みんなで集まることを楽しくやっています。

**【内山二郎氏】**

もう現在やっていらっしゃる。これからもやっていくと、サロン活動ということですね。ありがとうございます。

それから、地域での交流というところで、自分の近所から声をかけ合う、これが大事ではないか、Eさん。

**【参加者男性E】**

私の村も私の小さいころは60数戸しかなかったんですが、今、400～500戸はございます。やはり昔からいるもので、通り端に家があるんですが、なかなか、やっぱり子供にしても、大人もそうですが、やっぱり礼儀が出来ている方は、私が行くときに「気をつけて行ってこい」と、子供に声をかけますと、声が返ってきます。それでまた帰りに帰ってくる時も、「おかえり」というと、「ただいま」と、大きな声なんです、言います。

一番切ないのは、いい若い娘が、家はわかっているわけですが、昔からの家ですから。だけでも、「おやすみ」といっても横を向いて帰っていってしまう。やっぱりそこら辺が、世の中をよくするには、やっぱりそこら辺ができないと、厳しいと思います。そんなことで。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。県もあいさつ運動なんていうのを、今、盛んにやり始めていますよね。一言。

**【長野県知事 阿部守一】**

あいさつは、私も生きる上での基本だと思っています。

県職員にも、県庁の中でも大切に、ちゃんとしてくれと言っているんですけども。

今、信州あいさつ運動というのを、青少年育成会議の皆さんと一緒に県民運動で広げていこうということで取り組んでいますので、是非、そういう輪を皆さんの中でも広げていただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

**【内山二郎氏】**

県でもあいさつというのは大事だということで進めているということでもあります。

それから、独居の高齢者の仲間づくり、そして地域づくりということで、Fさん。お願いいたします。

**【参加者男性F】**

お一人でお住まいの方が非常に多くなっていく時代になってくるだろうということで、やはりお一人でお家の中ということから、できるだけ家の外へ、それから地域へというような、そういったことをまさに地域の皆さんで引っ張り出すような、そんなことができるのが望ましいと思っています。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。それからNPOの方ですかね。力強く推進しますと、何か決意表明のような意見です。

**【参加者男性G】**

私はNPO法人を担当しておりますが、今日はたまたまた一緒にNPO法人の理事長が一

緒に来ていらっしゃると思いますので、私から申し上げるよりも、理事長の方からご説明をさせていただきたいと思います。

**【内山二郎氏】**

1分ぐらいをお願いします。

**【参加者男性H】**

先日の衆議院選挙でいろいろ、ほとんどの国会議員の先生方は将来のことは何も言っていない。行政とか制度とかも頼れないと。だからもう自ら2025年問題（※2025年は、いわゆる団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる年。団塊の世代が給付を受ける側に回るため、医療、介護、福祉サービスへの需要が高まり、社会保障財政のバランスが崩れるとも指摘されている。）にあわせて、もう住民が立ち上がって共に支えあおうと、一言で言えば、介護者がいない時代にもう血縁関係だけではもう無理だと、今の日本の家庭では。だからもう地域ぐるみで介護者の代わりになろうというのが、今、我々が進めているところです。

**【内山二郎氏】**

地域ぐるみで支え合う仕組みづくりですか。

**【参加者男性H】**

支え合うというか、介護者になる。

**【内山二郎氏】**

被介護者をケアする。

**【参加者男性H】**

それで、家族がいなくても介護すると、最期は、望めばそこで看取るというのを今、進めているところです。

**【内山二郎氏】**

なるほど。もう実際、それは動き始めているわけですね。

**【参加者男性H】**

始めています。

**【内山二郎氏】**

頑張ってくださいと思います。

それから、世代間交流ということで、子供たちとの触れ合いという、Iさんがおっしゃっています。子供たちの教育、これがとても大事ではないかと、これはちょっと後で聞き

ましよう、知事のですた。

若年者と話をすること、そういう機会が非常に少なくなっているということでしょうか。地域の子供たちに伝統文化などを伝えてもらいたい、これは「もらいたい」ということで、Jさん、これは期待することでしょうか。若い世代からの、シニアの世代への期待でございます。

**【参加者男性J】**

すみません、私、神科小学校の方の「おたすけ十有志隊」というところで活動をさせていただいております、小学生の休憩の時間に、地域の年配の方たちが集まって子供たちと遊ぶということをやっているんですけれども。

その中で、メンコであったり、お手玉であったり、竹とんぼであったり、昔の遊びだとかをメインに子供たちに教えてやっています。そういうところで本当に子供たちも文化だとか、いろいろ学べる一方、年配の方たちも、今までは家でただテレビを見ていて、ちょっと具合悪くなったら病院に行つてというようなことをしていたにもかかわらず、そこに来ることで元気になって、病院に行くことも一切なくなったというようなことで、小さいながらも医療費の削減にもなるのではないかと、そんなように感じて、すごくいい取組だなと思って、今、注目させていただいています。それで上田市全体で、長野県全体とかに広がっていけばいいかなと、そういうふうには思っています。

**【内山二郎氏】**

もう既に上田では、やっぱりそういう学校に入つていたり、さっきもお話しありましたけれども、子供たちの世代にいろいろな伝統的な技だとか、遊びだとかというのを教える、そういう仕組み、結構できていますよね。

**【参加者男性J】**

そうです。ええ、ありまして。

**【内山二郎氏】**

この中でもいらっしゃるんじゃないですか、そういう取組していらっしゃる方。

**【参加者男性J】**

今日、お助けという主催の方たち何人かで来ようと思ったんですけれども、結構高齢の方が多くて、この雪なので来れないということで、一スタッフであるんですけれども、代表で行つてきてくれということで、お邪魔させていただきました。

**【内山二郎氏】**

よろしくお伝えください。

それから、やっぱり子供の問題で、Kさん。これは地域支援、介護サポーター、子育て

サポーターなどということではありますが、はい、Kさんは、シニア世代の期待ということでしょうか。

### 【参加者女性K】

はい、もうシニア世代ですけれども。最初、私たちはボランティアで活動しておりました。それは高齢者の社会支援のお手伝いをするということで、空き店舗などを使いまして数々の講座、子育て支援の講座とか、また高齢者の皆さんの介護支援、健康づくりなどの場面に高齢者の方のお力をお借りしたいという講座をやってまいりました。

その後、元気づくり支援金を受けまして、大きく町なかでそんなものを展開して、またサポーター育成講座を12回連続など取り組んできました。上田市で、このサポーター事業に参加してくれる方という呼びかけをしたところ、140の方がそのサポーター講座に来ていただき、その方たちはなぜそこに来たかという、地域のお役に立ちたいと言ってそこに参加してくださり、そこでスキルアップの人材育成を受けていただいて、またそれを持ち帰って地域のサロン、また公民館などの活動、子育てサポーター、NPOと協力いたしまして、サポーターとして現場に行っていたりなどの活動を、今現在、取り組んでいますが、大変大勢の方に現場のサポートをしていただいています。それを見て、これから包括ケアシステムの構築というところの民間の担う部分ですね。もう先ほどのNPOさんなんかは取り組んでいらっしゃるんですが、民間が担う部分に高齢者の方のお力をお借りしていくという、その形がこれからとても期待できるところかなと感じております。

### 【内山二郎氏】

ありがとうございます。

知事も子供のこと、子供たちの教育ということで、シニアの世代への期待を書かれておりますけれども。今までの話を聞いていて、自ら自分たちの地域にそういう仕組みをつくらうということや、子育てを支援する、そういうことをやっていこうというご意見が多かったんですけれども。

### 【長野県知事 阿部守一】

何か一々、私が個別に出てすみません。私は、自分では、実は子供たちの教育と書いています、そこに私の名前で張ってもらっていますけれども。

実は、長く話すと怒られてしまいますけれども、この間、ブラジルに、私、行ってきました。ブラジル長野県人会創立55周年記念式典で、大勢の長野県からブラジルに移民された方たちと一緒に55周年を祝ったんですけれども、もちろん移民された1世の世代、あるいは2世の世代の方々もかなりお年の方たちでした。

私が一番印象に残っているのは、そのとき祝辞で、日系人のブラジルの国会議員の方が来て、そのお話しの中に、「私たちは自分の親から、辛抱が大事だということを教わった」という話をされているんです。私は、辛抱なんていう言葉、久しぶりに聞いたなと思いました。

実はそれだけじゃなくて、やはりブラジルの日系人の皆さん、やっぱり日本の文化とかを大事にされて、それをやっぱり次の世代にもちゃんと引き継がなければという思いがすごく強いです。

翻って考えたときに、私たちは本当に長野県、日本のいいものを子供たちに引き継いでいるのか、孫たちに引き継いでいるのかというと、若干、心もとないところがあると思いますし、私は長野県の教育を是非再生したいと思っています。教育を再生したいと思っています。

教育を再生するには、もちろん学校の先生たちにも頑張っていただかなければいけないと思いますが、私はやはり一番、長野県で強く感じているのは、長野県はかつては教育県だったんです。今はほとんどの人が教育県ではないと思っているんですけども、昔は、県民の皆さんも、あるいはほかの県の人たちも教育県だと、いや、長野県は胸を張って言っていたはずですよ。その長野県の教育県の良さは、実はシニアの皆さんが一番わかっているはずですよ。皆さんが経験されて、皆さんが教わってきたわけですから。

私は是非、長野県の教育をもう一回再生するに当たっては、シニアの皆さんの知恵、力、そうしたものを是非生かせないだろうかと思っています。そういう意味では、私は教育、もちろんほかの分野も必要なんですけれども、私が今、知事の立場で感じているのは、是非教育に、本当に教育県だったことをわかっている皆さんの力を是非お借りしたいと思っています。

別の話で、皆さんの中には介護の話とか、地域包括ケアの話もありました。長野県全体にとって非常に重要なテーマです。もちろん我々行政もしっかりやりますが、例えばさっき言ったように、高齢者人口のピークを過ぎて、どんどん、またそれから人口が減ってきますので、長期的に考えれば、いっぱい施設をつくったり、いっぱい行政で人を雇ったりしてしまうと、多分、将来的にはムラが出てしまうという部分もあります。そのバランスをとりながら行政としてはどこまで投資するべきかというのを、市町村の皆さんと一緒に考えていますけれども。

やっぱり地域の皆さんが支え合う仕組みをつくってもらおう。これ、先ほどどなたかがおっしゃっていましたが、別に県がこうやれとか、市町村がこうやれというところでやる必要は私はないと思います。むしろ地域の皆さんが、本当に何が必要なのか。やっぱりかゆいところに手が届くには、私は今、行政の人間なので、あまり私がこんなことを言うてはいけませんけれども、きめ細かなサービスとか、あるいは、本当に地域の皆さんが期待しているサービスを行政に全部期待しても無理だと思います。全部行き届いたサービス、例えば長野県が全県に同じレベルでやるというのは、なかなか難しいと思います。そういうところは是非地域の皆さんの助け合い、支え合いの中でやっていただければありがたいと思いますし、逆にそういう中で、そんなことを言っても、県はもっとこれをやれと、知事は何、寝ぼけたことを言っているんだということを是非どんどん言っていただければ、一緒になって地域の皆さんの取組と我々行政の取組を合体させて、本当に安心できる地域にしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

**【内山二郎氏】**

子供の教育ということにつながり、学校支援という何か振りがこちらのほうに来ていました。

Lさんが学童の見守り隊、それから学童の通学の見守り。不登校の児童生徒に対して相談に応じたり、学業支援、教えるということということがシニアにできるのではないかと、Mさんどうぞ。

**【参加者男性M】**

不登校の子供さんというのがいっぱいいらっしゃるんですけども、実際、なかなか学校の現場で先生が1対1で時間を費やすのは実際難しい部分がございますし、なかなかそういう不登校の子供さんの気持ちというのが、なかなか理解するのは難しい部分もあります。

そんなときに居場所といいますか、子供さんの居場所というようなことで、いろいろなことを経験されてきた高齢者の方が、何というんですか、すごく理解していただけるのではないかと。そういった話も聞いていただいたり、場合によっては、ちょっとどうしても学業の部分とかも影響がありますので、そういったところでフォローしてもらえれば、高齢者の方にとってもいいのかなというような、ちょっと思ったもので書きました。

**【内山二郎氏】**

なるほど、ありがとうございます。

それから、学童の通学、見守り、見守り隊ということで、Lさん。何かコメントがあれば。

**【参加者女性L】**

うちの近所は県営住宅がございまして、割合、若い世代の方が住んでいるもので、小学生がたくさんおります。今日、雪など降っていましたら、伸び伸びと雪だるまをつくりながら帰っていく子供たちの姿が見えましたので、なるべく子供たちは、通学は伸び伸びとさせてあげたいと思います。

それですれ違いができないような細い道の通学ですので、できたらドライバーの皆さんに協力いただきまして、子供がよけるのではなくて、子供をよけていただくような運転をしていただきたいと思います。

**【内山二郎氏】**

子供を育てていく、地域の大人たちの気配りが必要だということですね。

今、学校支援のことについて出ていましたけれども、これは私ども長寿社会開発センターでも非常に大きな一つとして、事業の一つとして進めているんですが。

コーディネーターの戸田さん、これ学校支援ということで、随分、いろいろなところでいろいろなケースが今、生まれているようですけれども、上田でなくても結構ですが、こ



んなケースがあると、こんなふうにシニアが学校に入っていくことができるというのをちょっと一言、皆さんにお伝えください。

#### 【戸田シニア活動推進コーディネーター】

長野県長寿開発センターでシニア活動推進コーディネーターしております戸田と申します。

長野県内、本当に学校支援が、少しずつですけれども、進んでいまして、例えば一番すごいなと最近思ったのは松本市の島内小学校で、今日お配りしている人生二毛作かわら版にも少し記事を載せていると思いますが、もうボランティア室があって、地域の方たちが自由にその学校に行き来でき、そして先ほど知事さんもおっしゃったように、今後、校長先生おっしゃるには、クラスの先生がもう自らこういう人を募集しますというような、災害のボランティアセンターのように、その「求む」を、求人票ではないですけれども、ものをもうクラス担任が張るようなスペースをボランティア室につくることによって、それを地域の方が見に来て、家庭科のミシンがけの人が必要なんだとか、花壇づくりに一緒にやってくれる人が必要なんだということを見ながら、もうどんどん地域に入ってきてほしいというようなことも考えて、今、進めている、松本市の事例などもありますので、はい。

#### 【内山二郎氏】

もう少し学校は開かれて、しかも自由に地域の人たちが学校に行って、そして子供の授業にも参加できるような、そんな状況になれば。

#### 【戸田シニア活動推進コーディネーター】

そうですね、島内小学校は、もう今現在、1日の地域の方が入っていただいているという授業が、昇降口へ行くと、ボランティアボードに、1年何組、2年何組で全部張り出されていて、それを見て地域の方が、「今日は何年何組の図工にちょっとお手伝いに行こう」というような、そんな状況に今なっている学校もあります。

#### 【内山二郎氏】

これからですね。やっぱり信州型コミュニティスクールという言葉が県の施策でもありますけれども、やはりそういう形でどんどん地域の人たちが、シニアの世代、特に、学校に入っていくって、そして子供たちの教育に協力できるような、そんな体制ができればいいなというふうに思います。

それから、いろいろなボランティアができると、シニアの世代にということでもありますけれども、Nさん、経験を生かす場所、ボランティアがあるといいなと、これ、ちょっとその気持ちをお聞かせください。

#### 【参加者男性N】

それぞれ、私どものような現場をもう離れてリタイヤした人間をいかに活用するか、これは長野県においても、日本全国においても大変重要な活力になると思うんです。

そこでボランティアをやりたいという気持ちは皆さん、数多くの方、私が知る中でも多いと思うんです。それをどうやって活用するかという、活用する気持ちを持っているんだけど、機会、いわゆるそれを知り合うチャンスがない。その場がない。その辺のところを、ちょっとミスマッチをするのではなくて、マッチングできるような、何かチャンスを考えていきたいなということがあるんです。

そこで、それぞれやっぱり会社の経験だとかその他の経験が、子供たちがその他のボランティアでたくさん活用できると思うので、それを大いにやっていきたいという思いを持っています。

#### 【内山二郎氏】

ありがとうございます。まさに、私どもの長寿社会開発センターのシニア活動推進コーディネーターは、そのマッチングをする。そして新たなシニアの世代の人たちの経験だとか能力だとか、やる気を引き出しながら、もっと豊かな社会をつくるために、何かそういう仕組みはできないかということで頑張っているんですけれども。

常務さん、今、そういうミスマッチが行われているのではないかと、その辺を上手に、出番をうまくつくっていく、そのことが必要ではないかということですが。

#### 【長野県長寿社会開発センター 堀内常務理事】

そうですね、すみません、長寿社会開発センターで常務理事をしております堀内と申します。

今年から、いわゆるシニアの皆さん方が地域の課題、そういうものを発見して、また、そのシニアの力を最大限に引き出す、そんな組み合わせというか、コーディネートをするために、県のご配慮によりまして3名のコーディネーターを、おかげさまで配置することができました。

それぞれ皆さん方、3人のコーディネーターは非常に知識、それから技術を発揮しまして、皆さん方のご要望に答えるように、今、最大限やっております。それで、これをそれぞれの地域でそんな高齢者の人たちの相談とかマッチングができるような、そんなシステムを各地域につくっていききたいと。このような思いで進めておりますので、是非皆さん方も何かありましたら、是非私どものほうに問い合わせ、あるいは地元の保健福祉事務所のほうに私どもの支部がごぞいます。ですから、気軽にご相談や何かをしていただけたらと、このように思いますので、よろしく申し上げます。

#### 【内山二郎氏】

ありがとうございます。それからボランティア、もう既にやっていますという、Oさん。高齢者世帯への声かけ、孤立を防ぐためのそんな活動をしていらっしゃるというOさん、いらっしゃいますか。

### 【参加者女性〇】

私、民生委員をお引き受けして1年になって、昨日もひと回りというか、お声がけしてきたんですが。

その関係で皆さんに、私、特別どうと言うこともない「こんにちは、元気ですか、お変わりございませんか」とお声がけすると、たったそれだけの一言に、とてもうれしそうな顔をなさるんです。笑顔がとても素敵で、誰かと話したいんだなということがよくわかるんですが。

ちょっとお引き受けして1年で、今、考える時間もあまりなかったものですから、具体的には、では自分がどうしていけばいいのか。民生委員としてだけでなく、地域の一員といたしまして、これからどのようにこの方たちとかかわっていけば外へ、孤立しないで、外へ出てお話しをできる場をどういうふうに提供してあげればいいのかなどというのが、民生委員としての課題かなと思って書いたつもりでしたので、ちょっとまだ具体的なものが思いつかなくて申しわけありません。以上でございます。

### 【内山二郎氏】

ありがとうございます。そういうものに関連するんでしょうか。Pさんが傾聴ボランティア活動をやっているとおっしゃっています。

### 【参加者男性P】

2007年、平成19年から傾聴ボランティアセブンの会、2007の7をとってセブンの会という名称で、社会福祉協議会に登録をしまして活動しております。現在20名ほどで、個人宅は9人、施設は10カ所をやっております。否定しないでお話しを聞いてあげると、こういうことが大変大事でございます。

平成29年からは、今の介護保険で使う要支援が市町村に任せられると、こういうお話しを聞いておりますので、市町村では大変それを重要視して、もう私たちも期待しているんですが、この近辺でそれを捉えてやっているのが長和町、御代田町、軽井沢町、そして佐久の方で、もう社協と市町村と合同でそういう準備をしております。上田市はちょっとまだそのことを言っていないので、私たちがその期待に沿ってやっているんですが。

ちょっと知事さんにあわせてお願いしたいんですが、前の知事がやっておったときには、地方事務所ごとに傾聴ボランティア養成講座があったんですが、それがなぜか、阿部知事になってからなくなってしまったんです。大変残念でございます。

内山先生もいらっしゃるところ大変申しわけないんですが、それで講座を受けた方々が高齢で去っていくもので、だんだん傾聴ボランティアやる方が減ってしまっているんです。そんなことで、是非傾聴ボランティア養成講座を実施していただきたいと。これ東京にファミリーケアという、内山先生ご存じだと思いますが、鈴木先生が理事長で全国飛び回っていますけれども、その方々を呼んでやっていただきたいと思います。費用は大したことはないんですけれども。私、上田市の魅力アップ事業に昨年応募しましたら見事採択されまし

て、昨年から、この傾聴ボランティアの関係を、養成講座からスキルアップから全部、5年間だけやる予定になっております。今年2年目でございますけれども、是非知事に養成をお願いしまして終わらせていただきます。ありがとうございました。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。また後で、このことについて知事に答えていただきたいと思います。

それから、もう既にボランティア活動をやっていますということで、買い物の手伝い、それから出かける足、今、やはり交通の足の問題、特に高齢者のその足をどう確保するかというのは大きな問題ですけれども。Qさん。

**【参加者女性Q】**

私の住んでいるところは市内からそんなに離れていないんですけども、市内のちょっと枠の外という感じで、お買い物に行くとか、ちょっと出かけた方がいい方いるなんていうときにすぐに、では乗せて行ってあげられるとか、買い物に行くから一緒に行かないかとか、あるいはそういう要請があれば、すぐにみんなでお手伝いできればなという思いがします。

**【内山二郎氏】**

なるほど、そういう買い物とか病院に行く、そういうお手伝いをしたいという、これからそういう場があればいいわけですね。

**【参加者女性Q】**

そうですね。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。それから、時間が押してきておりますので、居場所と出番づくり、さっき知事の中にも、居場所と出番という言葉がありましたけれども。

孤立化を防ぐ居場所づくりということで、これはシニアができるのではないか、これはRさん、どうぞ。

**【参加者男性R】**

先ほどのワンコインサロンでしたか、あれも一つの居場所ですね、やっぱり。そういうものがいっぱい町の中に、今、結構空き家を見るんです。何か結構味のある、風情のある古民家というんですか、結構、そういう若い人たちが今、うまく利用して、結構今、カフェとかいろいろなものをつくったりしていますね。そういうものも一つの居場所だとは思いますが。

もっと、そういう意味で広がりのある、また年齢も高齢化の方たちも自由に何か選択できるような、もっと垣根が低いといいますか、変なんですけれども。何かどうしても高齢

になっていくと、なかなか外に出にくくなるとか、ちょっと年も気にして出にくいとかという、何か、なかなか気持ちのほうに先に立ってしまうのではないかということも感じないわけではないんですけども。

そういう意味で、もっと選択肢を広げられるような、何かいろいろな方たちにあわせた居場所が町の中に増えていけば豊かな地域にまたつながっていくし、明日が本当に待ち遠しい人生というか、何か寂しくならないような、孤立化しないような居場所が増えていけばいいなと思っています。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございました。もう一人、では聞きましょうか。Sさん。昔の人の生きる力、知恵、これを伝えること、これ大事だとおっしゃっています。

**【参加者女性S】**

昔の人の知恵はたくさんあるかと思うんですけども、今、子供たちにそういうことを地域で伝えていただければありがたいなと思いました。

**【内山二郎氏】**

シニアならではの、はい、ありがとうございます。

それから家でもできるシニアの方の社会参加、これが大事ではないかと。これはTさん。

**【参加者女性T】**

私は隣組が9軒ありまして、そのうち6軒が80歳以上の高齢者の方で、やはりちょっとずっと雨戸が閉まっていると、どうされているのかなと心配になることがあります。

それで、今までは「家から出る社会参加」だったんですが、家でも実は社会参加というのはできるのではないかと思います。私、二人、子供を抱えながらちょっと仕事をしているんですが、実はそういうときに隣組の方に、そういう高齢者の方に、家でちょっと見てもらえればなど、そのときにとても得るものが多いんですが、伝承遊びとか戦争体験とか、本当に皆さんに教わることが多いと。そういうことをちょっとでも子供に伝えていただいて、そのかわり、子供が、ではごみ捨てに行って来るとか、雪かきをするよと、お互いに助け合いながらできる、小さい単位からのシニアの方の社会参加はいかがかなと思って書きました。

**【内山二郎氏】**

なるほど、家において、何かグループをつくったり、何か特別に出かけていくのではなくて、家にいながらにして社会参加ができるという、そういう仕組みとか、そういう出番をどうつくっていくのかということですね。

それから課題としてくくられているのが、不安、困りごとを早めに知り、これに向かって行動することがいいと思う。Uさん。

**【参加者男性U】**

まさか、ちょっと課題というところと言われると思わなかったんですけども。私、実はだれでも不安というものを持っている。

**【内山二郎氏】**

不安を持っている。

**【参加者男性U】**

だと思います。一番持っているものは何かと言えば、知事もおっしゃいましたが、健康的なものだと思います。私も実は不健康な部分もありますし、だれでも不健康な部分はあると思うんですけども、それをクリアするために考えてやっているのが、私、行動でいいのかどうか知りませんが、毎月一度、88チャレンジ会というものを立ち上げて、毎月一度、皆さんと、不健康な方々を主体にしながら散策活動とか、いろいろなことを、あるいは映画鑑賞とか、あるいは芝居鑑賞とかというようなことをしながら、88チャレンジ。88チャレンジというのは88歳まで、さっき知事おっしゃいましたけれども、長野県の長寿、88歳まで頑張ろうと。今、80歳事業をやっているものですから、88歳まで頑張りたいという意味で行動を起こしているのですが。

ひとつ、それ課題といえば課題かと思います。以上でございます。

**【内山二郎氏】**

ありがとうございます。ここにせっかく張っていただいた皆さん一人一人からコメントをいただきたいんですが、こんな時間になってしまいました。ちょっと申しわけございませんでした。うまくタイムチェックができなくて。

知事、今までの話を聞いていて、ちょっとまとめ、総括、まとめという形で・・・どうぞ、何ですか、短くどうぞ。

**【参加者男性V】**

私は、県政34年間やった男であります。34年間のうち、商工部長と総務部長、公営企業管理者とやってまいりましたが、はっきり申し上げて、最近テレビを見ていると、阿部知事が小さい問題でも全部答えているだなど、あれはだめですよ。小さい問題は課長でもいい。特に、私は長いキャリアの中で、部下を育てるということを一生懸命やってきました。そのことが一番大事で、知事はまさに県政のトップなんです。素晴らしい部下を育てて、「見てくれよ俺の育てた部下を」と、こういうふうな県政をやってほしい。

テレビを、私はNHKしか見ないから、SBCにはそういう課長や部長が出て討議しているかどうか知りませんが、NHKはほとんど知事ばかりしか出ていない。あれでは人材は育たないです。苦勞をして滑って転んで、たまには知事に怒られて、それでこうなるんです。

それから、35歳ごろ、社会部の企画係長で社会福祉総合センター、8億7,000万円の予算をあてがわれて、職員を三か月も午前様で働かせて、それですばらしい社会福祉施設をつくった。品格がある社会福祉総合センターです。ところが、この間あることで行って見たら、ロマンがみんななくなって事務所だけになっている。あれでは全然、私もやっているようにしてくれなかったということを行っているのではなくて、高齢化社会というのは、スポーツもあり、趣味もあり、みんなあるわけです。ですから、日本は今日あるのも農業をやったりして苦労して、小さいことにも目をつけて教育されてきた、そのおかげだと思っているんです。

だから、そういうことを社会福祉総合センターでもやってもらいたい。この間、堀内君（常務理事）のところへ行ったら、堀内君（常務理事）と内山先生が並んで、事務屋なんかをやっていたんです。

**【内山二郎氏】**

事務屋なんかやっていませんよ。活動していますよ。

**【参加者男性V】**

そう言っているけれども、事務所の中にいるとわからないと思うんです。

**【内山二郎氏】**

わかりました。今もそれも全部含めて、ちょっともう時間ですので、わかりました。それも受けとめて、はい、お答えいただきたいと思います。

## 5 知事結びのあいさつ

**【長野県知事 阿部守一】**

ありがとうございました。県の職員に頑張ってもらおうというのは、全く私もそのとおりで思っています。ただ昔と違って、毎週知事会見をやっているのも、どうしてもテレビに映る機会は私は増えていると思います。

私の2期目の県政では、職員の前でも言いましたけれども、「共感と対話の県政」で行こうと。行政と県民がいつもあっち側、こっち側という感じではなくて、県民の皆さんの思いに寄り添って、そして対話をしてくれと。これは私も率先してやりますけれども、今日も県の職員は来ていますけれども、これ県の職員も、これまでの県職員は、私は県民の皆さんから見たときに、ちょっと敷居が高過ぎたところがあるのではないかと思っています。これは多くの人たちからそういう感想を聞きます。私は、やっぱりそれも変えなくてはいけない。それは、知事だけがどうこうするのではなくて、やっぱり県職員全体で県民の皆さんに寄り添って対応すると。

今回の神城断層地震への対応も、もちろん私が災害対策本部長で対応しました。だけど、本当に、例えば建設部の職員は道路の復旧、不眠不休で頑張ってもらいました。あるいは危機管理部の職員は、避難所の皆さんにいろいろな支援、市町村に対して支援してくれま

した。そういう意味で、県全体で今、取り組んでいますので、少し長い目で見ていただければと思います。

それから、今日のテーマでありますけれども、やっぱりシニアの皆さんの力、私は是非いろいろなところで発揮をしていただきたいと思いますし、発揮をしていただくためのお手伝いを県もしっかりしなければいけないと思います。

先ほど傾聴ボランティアの研修のお金がなくなってしまったという話は、ちょっと私、また確認しておきますが、私はさっきも言ったように、自助と共助と公助があって、県ができること、行政ができることというのは全てではないと思っています。そんな行政が全部やったら税金をいっぱいとらなくてはいけなくなりますし、そんな社会は私は健全ではないのではないかと思います。ただ、行政がやっぱりやらなければいけないことも、もちろん必要などころはいっぱいまだまだありますので、そういうところは是非改善していきます。が、シニアの皆さんの力を発揮できる仕組みがまだまだ足りていないと思っています。それで内山理事長と相談して、これは今年からコーディネーター、シニア活動推進コーディネーター、3名の方に今、活躍してもらっています。

それで、私は県と市町村は自ずから役割分担は違うと思っていまして、県がそれこそさっきの、知事が細かいことまでやってはしようがないだろうというお話と似ているんですが、県があまり地域の細かいことまでやっても仕方ないと、これはもう市町村にやってもらうしかない部分がいっぱいあるわけですけども。

そういう中で、県のコーディネーターにやってもらいたいのは仕組みづくりだと思っています。個々の人たちを結びつけるというよりは、例えば今、働く場であればハローワーク、あるいはシルバー人材センター、あるいはボランティアであれば社会福祉協議会、いろいろなシニアの皆さんを受け付ける場があるんですけども、どうも今まではそれぞれが縦割りで、横の連絡がほとんどできていなかったのが、今、コーディネーターの皆さんには、そういうところのまず横のつながりを作ってもらっています。

その中で、例えばさっきもお話しありましたけれども、県として信州型コミュニティスクールというのを進めようとしています。では、信州型コミュニティスクールを作るときに、では地域の皆さんに協力してもらわなければいけないので、それは、ではどういうところと連携すればいい仕組みができるかというのを、今、一生懸命やっていますところですよ、内山理事長。

そういう意味で、人生二毛作社会の実現、これはちょっと二毛作という言い方がいいかどうかというところは大変議論がありますが、これ私が名前をつけました。やっぱり一度の人生、何か、そういえば企業で勤めていた方が定年で、何かそれで、あとは老後みたいな人生は、もう人生80年時代にはふさわしくないというふうに思っています。やっぱり年をとっても、元気で活躍できる皆さんには能力を発揮してもらいたいと思っています。そういう場づくり、これからも長寿社会開発センターの皆さんと一緒に、しっかりと進めていきたいと思っています。

最後に、先ほどの88チャレンジ会ですか、あれいい名前だと思って伺ってまして。長野県の平均寿命は、男性が80.88歳で女性が87.18歳、是非、やっぱりこの88まで皆さん



に長生きしてもらえれば長野県の平均値をもっともっと伸びていきますので、それを目標に是非、私たちも応援をしていきたいと思ひますし、是非地域の皆様も一緒になってこの健康長寿県づくり、そして健康長寿の中で、どうやってシニアの皆さんに頑張ってもらえるかということは、それぞれの地域でも考えていただければありがたいと思ひます。

最後に1点だけ。今日は、どちらかというところ、ボランティアとか地域活動のところの話が多かったんですが。私はもう1点、全く違う切り口ですけれども、実は高齢者の皆さんでももっと働いてもらってもいいと思ひています。

その一つが、例えば自分で起業する。仕事を作る。あるいは、今、政府全体で地方創生ということで議論していますが、この間も石破大臣と話したときにも、大臣もおっしゃっていましたが、例えば企業とか、いろいろな分野で経験を積んだ方々がもう一回、教えるスキルを身につけてもらいたいんですけれども。自分たちの経験を生かして教えるスキルだけ学んでいただいて、それを、さっき例えば子供たちに教えてほしいという話もありましたけれども、子供たちだけではなくて、やっぱり技能者、後継者を育てる、農業だったり製造業であったり、いろいろな分野で、実は人づくりが、これ長野県にとっても、日本全体にとっても大事です。それをやっぱりシニアの皆さんにそういう部分を担っていただくと、本当に地域社会が元気になり、産業も元気になる、いい循環がつかれるのではないかと思ひますので、そういう仕組みも、また内山理事長と相談しながら県として考えていきたいと思ひています。

今日はいろいろ皆さんの思いとかお考えを聞かせていただきまして、大変ありがとうございました。県としてしっかり生かして対応していきたいと思ひますので、よろしく願ひいたします。ありがとうございました。

#### 【内山二郎氏】

どうもありがとうございました。皆さんと進めてまいりましたタウンミーティングですけれども、ちょっと時間が過ぎてしまいました。

今日のタウンミーティングでは、上田地域の皆さんの生き生きとした活動の様子を知ることができました。地域の様々な課題を、放っておけないとか、行政任せにしないとかということではなくて、それを自分たちの力で何とかしなければという、その心意気が伝わってまいりました。それこそが地域を変える力になるんだと思ひます。

また、幾つになっても居場所と出番があること。そして自分が他者のために何らかの形で役に立っているという、自己有用感という言葉がありますけれども、それを持って生きることが健康長寿、88チャレンジ会という話もありましたけれども、健康長寿、生涯現役社会を実現することにつながるのではないかと思ひます。

会場の皆さん、最後まで熱心なご参加、どうもありがとうございました。

## 6 閉 会

#### 【広報県民課長 土屋智則】

内山様、会場の皆様、どうもありがとうございました。

「シニアのチカラで社会を変えよう！」このテーマに向けて、皆様のいま一度、拍手をもってこの会を閉めたいと思います。よろしくお願いいたします。

この後、素敵な演奏で皆様をお送りしたいと思います。演奏されますのは、上田市内の幼稚園や公民館など、地元でご活躍いただいております那須野正幸様、なみ紀様ご夫妻です。どうぞお聞きになりながら、お帰り仕度をしていただければと思います。また、お時間が許す方はお手元のアンケート調査にもご協力いただければと思います。

それでは、これもちまして県政タウンミーティングを終了いたします。長時間にわたりご協力いただき、ありがとうございました。